

<議題①:近年の自然災害に伴う送配電設備の被害状況について>

○送電鉄塔や配電柱と個別の建物との大きな違いは、電線の存在。電線に飛来物等がかかった場合の電線張力による倒壊や地盤変状等で設備が損傷した場合の隣接する設備の被害等についても調査すべき。

<議題②:鉄塔・電柱に係る技術基準をめぐる現状について>

○建築分野でも基準風速の見直しがよく議論される。現状、台風時の風速が基準風速より大きかったために損壊等が発生したことはない、と考えられているのではないか。

○地域の気候や地形に応じた風圧荷重は必要。

例えば、九州電力では、送電鉄塔に対しては設計風速が比較的大きく設定されているのではないか。実際に、沖縄や九州、四国等の実例を調査した方が良いのではないか。

○現在の技術基準は風圧荷重を規定しているが、飛来物や倒木等の強風に起因する風圧以外の荷重に対する対策を検討した方がよいのではないか。

○電柱の損壊要因は、市街地での飛来物、山間地での倒木であると指摘されているため、基準の数値だけでなく、二次被害への対応も検討すべきではないか。

以上